

を出來得る限り有效ならしめんとするに在るは勿論であつて、此の案に依るならば道路上に置かる、標識は授業の始まる時より一時間半許り前に之を置き、兒童が家に歸つた後は之を取去るべく、換言すれば警戒の必要な時だけ標識を立てることにするを要し、且之を以て足りると信ずる。

## 北海道の道路

内務技師 宮本武之輔

北海道廳の囑託を受けて市瀨内務技監に隨行し去る五月九日から六月一日まで二十餘日を北海道各地の視察に費やした思ひ出を辿つて北海道の道路に就ての感想を記して見よう。

北海道は私に取つては未知未見の國土であつた。その未

固より斯くの如き場所の標識は兒童に毆られ破られ、傷けらるゝ事が多からうけれども、併しながら此の標識に依る效用は、斯かる損失を償ふて尙餘りあることは言を俟たざる處であると確信する。(同上)

見の國土に足を入れる事の樂しさを別にして、私はその旅行の目的が拓殖調査であり市瀨技監が、拓殖調査委員の一入であると言ふ事に少なからぬ興味を感じたのであつたわが國の人口問題食糧問題は上下を擧げて研究しなければならぬ國家的の憂患であつて、その解決は殆んど絶望たるに近ひのと、焦眉の急を要するとの二點に於てわが國の大脅威とす可きものである。

巴里にゐた頃カルテイエ・ラタンのサン・ミッシェルのあ

たりで『ラ・ヴェー・ウーラ・モール・ド・ラ・フランス』（佛國の死活）と言ふ小冊子を買つて見た事があつた。佛國の出産が年々に減少して已まない事實を憂慮する同國國民同盟が賞を懸けて募集した一等當選論文である。その論文の内容は昨年の秋、雜誌『工人』に譯載したのであるが、佛國の識者が祖國の將來を憂ふる一言一句は血を吐くばかりの熱誠に燃えて、私の如きエトランヂエーさへも秘かに同情の涙を止め得ない。私はエツフェル塔のほとりの寓居の机の上にその論文を披いて、わが國の人口問題を考へて見た。

佛國では生れざるものゝ悩みがある代り、わが國には生るゝものゝ悩みがある。毎年増加する處の七十五萬人の人口は今後何處に收容せられるのか、佛國の沃野の美しさを坐るに羨んだ私は、大部分の食糧を海外の殖民地に仰ぐ英國がその全國土を擧げてゴルフ・リンクとし牧場とし庭園として顧みないかの觀ある贅澤さをも羨まずにはあらね

かつた。

恵まれざる國土よ。汝の名は『ル・ペイ・ド・ヌ・ソレイユ』なり。

## 二

河川調査のために地方へ出張する時には私は必ず地方廳でその府縣は産米の上から自給自足の出来る土地であるかどうかを聞いて見る。そして問題の河川を改修する事によつて何千町歩の耕地を水害から免れしむる事が出来るか、それによつて幾許の産米を増加せしむる事が出来るかと言ふ様な事を考へて見る。固よりそれ位の事でわが國の食糧問題が片付く譯のものではないが、北海道と言ふ大きな面積を取つて考へて見ると人口問題食糧問題に對して九牛の一毛位の價値はある。今度の旅行に對する私の興味はそこから起つたのであつた。

北海道には廣大なる原始林がある。夕張、空知、雨龍と言ふ様な炭田がある。海産は世界三大漁場の一と言はれる

米は昔は北海道には産しないと考へられたのに種子の改良及び耕作法に研究を重ねた結果、今では二百萬石の年産額があると言ふ。数年の後には、自給自足の域に達するであらう。

斯の如く北海道はわが國の内では天恵に富んだ部分であるが、而も私の眼に映じた北海道はひどく住み荒された廢園の如きものであつた。肉を散々に食ひ散らした跡の骨やあらの如きものであつた。それから開道五十年而もその開拓の遅々たるを嘆せしめるのであつたが、その病根は敢て茲には摘剔しまい。

幸ひに北海道拓殖調査會が設けられて第二期拓殖計畫が樹立せられるのである。各政黨から選ばれた民間委員の如きも拓殖計畫は黨利黨略の外に置かなければならないと言ふ主旨に基いて申合せをしたと言ふ。誠に結構な事と思ふ

### 三

北海道の道路は實に慘憺たるものであつた。内地府縣と

雖も道路のいゝと思はれた所は數へる程であるが、北海道の道路は國道、地方費道、準地方費道、町村道ともに、單に道路敷地たるに止まつて、道路の使命を完全に果し得るものは稀である。甚しきに至つては札幌小樽間の國道の如きその路線の上を鐵道が通る事になつて國道が全く形を失つて仕舞つたのがあり、地方費道にも之と同じ例が外にもあつて、鐵道線路の上を人が通行するので吹雪に視野を狭められ、音響を消された冬期には毎年數多の人命を失はしめるとは全く嘘の様な話である。

道路の必要不必要は今更問題にはならない。又道路と鐵道との關係の如きも茲に論じようとは思はない。唯苟くも道路の必要を認めて之を開鑿する以上は、曲りなりにも道路の効用を發揮し得る程度のもを作する事が最小限度の必要である北海道の道路は此の最小限度の必要をすら距る事遠し。聞く處に依れば地方民から所謂拓殖道路（幅二間にして開鑿後十年にしてその維持修繕を町村に移して町村道とするもの）設置の陳情書は道廳に山積すると言ふ事であ

るが、彼等の希望する道路は自由に車馬を通じ得る道路なのである。彼等は之に依つて自己の生産品を安價に市場に運び、消費品を安價に市場より購はんとするのであつて、道路の第一目的は實に之に外ならないのである。然るに晴天には轍跡徒らに交通を妨ぐると共に萬丈の黄塵を飛ばし雨天には泥濘馬腹に達するもの、果して道路ともて之を許し得るや否や。

函館市街の如きすら往年樽拾ひの小僧が往來で溺死したと言ふ話柄がある位である。他は推して知る可し。

#### 四

道路の開鑿及び改良に關しては土木部の主張と拓殖部あたりの意見とは相當の隔たりがある様である。拓殖計畫案の内容は秘密に附されてゐるからその詳細を茲に報導する自由を持たないが、道路橋梁費としては二億に餘る豫算が計上せられ、その中の三大費目は、

道路新設 三、〇〇〇里

同 改良

六五七里

同 修繕

三八、五六七里

道路改良は延長は七〇〇里に満たないけれど幅三間半の國道約三〇里、幅三間の地方費道二七〇里、幅二間半の地方費道約一七八里（他は幅二間の町村道）を含み、且つ石狩川釧路川等の特殊橋梁十箇所を含むが故に、費目としては相當の金額に上るのである。

茲に問題が生ずる。拓殖道路三、〇〇〇里の開鑿は大いによし。否之を以てしても猶ほ足れとはしない。唯道路の改良の如きは不怠なる整澤の沙汰ではないか。札幌市街に木塊舗装を施し豊平川に美わいダート・オーチを架けて見た所で、拓殖移民は何等の恩恵に浴しないではないか。理論として此の見解は正しい。然しながら北海道の道路改良は一部分の街路を除いては單に砂利道に作り上げるだけの話であつて、京濱國道の様に瀝青舗道に仕上げるのも何でもない。北海道の悪道路は前述の如しとすれば、折角開鑿した道路をして眞に道路としての使命を全ふせしめ

るに足るだけの改良工事を施すのは當然であつて、私は寧ろそれこそは當面の問題と思ふのである。

五

近來自動車道路と言ふ事が大分問題に上る。然しながら自動車を通ずるに足るだけの舗装を施すと言ふ事は、決して乗用自動車を目標とし所謂有産階級に輕快なるドライブを試みしめるための道路を作る意味ではなくして、重量の遙かに重むるして國民生活に密接の關係を有する自動車輸送の機關としての貨物自動車を目標とするものである事を誤解してはならない。

わが國は貨物運賃が高いと言ふ事が物價の高い一つの原因に數へられる。特に小運搬の費用が嵩ばるのである。外國から横濱まで二萬哩を汽船で運ぶ運賃よりも、横濱から東京まで二〇哩の小運搬の方が高額に上るのは何故であるか。海陸連絡設備の不完全なるがために貨物の積下に無用の費用を要する事は北海道にあつても函館水樽に於て體驗

せられた事と思ふが、單に陸路運搬の點からのみ言へばわが國の道路が悪いが故である。舊式なる荷馬車を以て運輸機關とするが故である。

此の意見から言へば道路の改良は焦眉の急であつて斷じて贅澤なる閑事業ではないのである。況んや現在殆んど道路を以て認め難き北海道の道路の如きに對して砂利敷の如き姑息なる改良工事を施す程度に於てをや。

六

内地府縣の道路に於ても修繕の名目の下に各郡市町村に亘つて誠に姑息なる工事を施して年々歳々改めらるゝことなきを私は常に遺憾とするのである。毎年道路修繕のために支出せらるゝ工費を從來の如く總花的に全管下に撒布する代りに路線の輕重に應じてその先後の順序を定め集約的に改良工事を施したならばわが國の道路の改良は面目を一新するであらう。地方民と言へ共たとへ一時の不便は忍んでも斯の如き方針に賛成する事が永久の利益ではある

まいか。

私をして極言せしむるならば北海道の拓殖道路開鑿は此の内地府縣の道路修繕と同様の不利を踏襲してはならないか。私は拓殖道路の開鑿を不必要とは言はない。唯馬の溺死する様な道路を一、〇〇〇里作るよりは先づそれだけの金で眞に道路らしい道路を一〇〇里作る方は利益であると言ふのである。

論者は言ふ。移民は禪の皺に風の潛り込むが如く各溪流の澤々に入り込んでゐる。彼等に農産物を搬出せしめ物資を搬入せしむるための道路を開いてやるのは急務中の急務ではないかともつとの話である。然しながら風の如き移民の跡を追つて道路をつける事になれば日も猶ほ足らず、數戸、十數戸の人家のために數里の道路を開く事は、豊平川のタイドアーチ以上の贅澤である。斯の如きは移民の配置に充分の注意を拂ひ合理的なる殖民計畫を立てる事によつてのみ匡救し得るその罪を道路の不足に求むるは當らず

## 七

第二期拓殖計畫案に謳つて言ふ。人口六百萬、水田三十萬町歩、牛馬百萬頭、等々。景氣は至つて宜しいが現在二百五十萬の人口が二十年後に六百萬人になつた處で、それはわが國の増加人口七十五萬人を以てすれば五分にも足りない三百五十萬の増加に過ぎないのである。かう言つての間にも人間はどん／＼殖えつゝある。

北海道廳は内地府縣に宣傳して移民の招致に腐心して居られる。私は之を無用だとは決して言はない。然しながら移民を招致すると共に否それに先んじて治水港灣道路の如き土木工事を完成して移民をして安んじて生業に就かしめ北海の山野を己が墳墓の地と定めしむる事が絶対に必要であると信ずる。此の意味に於て拓殖計畫事業の緩急輕重は自らして定まるのである。

北海道そのものゝ内容を整へずして移民の増加を策する事の誤れると共に不可能なるは、商品の品質改良を思はず

して徒らに賣込みに腐心するが如し、斷じて顧客な百年の後に失はざる所以にあらず。

八

倫敦にゐる時分に日本の雑誌を見て牧野英一博士の『最後の一人の生存權』と言ふ論文を讀んだ事がある。家庭學校の富岡農場に始めに米が出來た事を紀念するための講演會に出席せられた牧野博士の社會問題に對する短篇であつたその論文を非常に面白く讀むと共に朔北北言の國にも米が取れる様になつた……と言つた様な文句を未だに私は覚えてゐるのであるが北海道の拓殖のために眞劍なる努力を續けて來られた幾多の人々に對しては私は萬腔の敬意を拂

ふ。特に北海道に米を産するに至る迄の農民の苦心談の如きに至つては私は極度の感激を以て傾聴する。昔から北海道の利權が黨利黨略上の好餌に供せらるゝ事なく、且つ學生の努力を以て北海道の開拓に従ふ官民のみがそこにあつたならば、北海道はもつとく立派に開拓せられたであらう。今日北海道の各地に於て徒らに官權に頼らんとする請願や陳情の夥しいのも、私をして失望せしめたものゝ一つである。往年未開の原野に草莽を切り拓いたバイオニヤアの意氣を彼等に求める事は、そもく無理な注文なのであらうか。

願はくは北海道拓殖の前途に幸ひあれ。

# 利根川下り水郷遍路

□×新聞記者 長

紅 生

……ブラック生活の暑苦によい加減にうだつて了つて、些

可神經も狂ひさうになつて、こんなことが持續したらあ